

# 米国農務省穀物等需給報告(2022年9月12日発表のポイント)

令和4年9月13日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、9月12日(現地時間)、2022/23年度の5回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。  
－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

(※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億5,553万トン(対前年度比 1.6%減) ↓
- ② 消費量: 27億8,295万トン(対前年度比 0.7%減) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億7,182万トン(対前年度比 3.4%減) ↓  
期末在庫率: 27.7%(対前年度差 0.8ポイント減) ↓

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 世界の生産量は、ロシアで収穫面積、単収、生産量がいずれも史上最高となり、ウクライナでも単収が引き上げられたこと等から、前月から上方修正され、前年度を上回り、史上最高となる見通し。世界の消費量は、ロシアやEUで主に飼料用その他需要量の引き上げにより前月から上方修正されたが、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの実産量は前月から上方修正されたが、輸出量は前月から変更はない見通し。

- ① 生産量: 7億8,392万トン(対前年度比 0.5%増) ↑ ・ロシア、カナダ、米国等で増加、ウクライナ、インド、EU、アルゼンチン、豪州等で減少(前月に比べロシアで上方修正)
- ② 消費量: 7億9,102万トン(対前年度比 0.5%減) ↑ ・ロシアで増加、インド、中国等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億6,857万トン(対前年度比 2.6%減) ↑ ・ロシア、中国で増加、インド、EU等で減少  
期末在庫率: 34.0%(対前年度差 0.7ポイント減) ↑

**とうもろこし** : 世界の生産量は、東北部等で降雨に恵まれた中国やウクライナで単収が引き上げられたが、米国で単収、収穫面積が引き下げられたことに加え、EUの単収の引き下げにより、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、米国等で飼料用需要等が前月から引き下げられ、前年度より減少する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの実産量、輸出量はともに前月から上方修正された。

- ① 生産量: 11億7,258万トン(対前年度比 3.9%減) ↓ ・ブラジル、アルゼンチン等で増加、米国、EU、ウクライナ等で減少(前月に比べ中国で上方修正、米国で下方修正)
- ② 消費量: 11億8,018万トン(対前年度比 1.7%減) ↓ ・中国、ブラジル等で増加、米国、EU、カナダ等で減少(前月に比べ米国で下方修正)
- ③ 期末在庫量: 3億453万トン(対前年度比 2.4%減) ↓ ・ウクライナ、ブラジル等で増加、米国、中国、EU等で減少(前月に比べ中国で上方修正、米国で下方修正)  
期末在庫率: 25.8%(対前年度差 0.2ポイント減) ↓

**コメ(精米)** : 世界の生産量は、インド北東部での乾燥の継続で前月に続き生産量が引き下げられたこと、中国南部での干ばつ、パキスタンの洪水で生産量が引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は史上最高の見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、インドは砕米の輸出を禁止し、精米等に輸出税を導入した。

- ① 生産量: 5億799万トン(対前年度比 1.4%減) ↓ ・インド等で減少(前月に比べ中国、インドで下方修正)
- ② 消費量: 5億1,932万トン(対前年度比 0.2%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 1億7,356万トン(対前年度比 6.1%減) ↓ ・中国、インド等で減少  
期末在庫率: 33.4%(対前年度差 2.3ポイント減) ↓

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国で単収、収穫面積が引き下げられたこと等から、前月から下方修正されたが、南米の増産見通しから前年度を上回り、史上最高となる見通し。世界の消費量は、米国で搾油量が引き下げられたが、中国の需要増から前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- ① 生産量: 3億8,977万トン(対前年度比 10.3%増) ↓ ・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、中国等で増加(前月に比べ米国で下方修正)
- ② 消費量: 3億7,768万トン(対前年度比 4.1%増) ↓ ・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,892万トン(対前年度比 10.3%増) ↓ ・ブラジル、アルゼンチン等で増加  
期末在庫率: 26.2%(対前年度差 1.5ポイント増) ↓

## 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年9月12日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,724.90	2,801.01	2,755.53	▲ 1.6%	▲ 6.0	2,295.7
消費量		2,741.33	2,803.22	2,782.95	▲ 0.7%	▲ 0.5	2,284.4
期末在庫量		801.45	799.24	771.82	▲ 3.4%	▲ 5.7	480.4
期末在庫率		29.2%	28.5%	27.7%	▲ 0.8	▲ 0.2	21.0%
<b>小麦</b>							
生産量		774.53	779.90	783.92	▲ 0.5%	▲ 4.3	660.5
消費量		782.19	794.78	791.02	▲ 0.5%	▲ 2.4	680.0
期末在庫量		290.55	275.67	268.57	▲ 2.6%	▲ 1.2	181.1
期末在庫率		37.1%	34.7%	34.0%	▲ 0.7	▲ 0.1	26.6%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,441.10	1,506.03	1,463.62	▲ 2.8%	▲ 5.9	1,159.2
消費量		1,455.63	1,490.25	1,472.61	▲ 1.2%	▲ 3.5	1,139.5
期末在庫量		322.90	338.68	329.68	▲ 2.7%	▲ 2.0	175.7
期末在庫率		22.2%	22.7%	22.4%	▲ 0.3	▲ 0.1	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,129.29	1,219.76	1,172.58	▲ 3.9%	▲ 7.0	898.8
消費量		1,143.97	1,200.40	1,180.18	▲ 1.7%	▲ 4.6	877.4
期末在庫量		292.78	312.14	304.53	▲ 2.4%	▲ 2.2	144.8
期末在庫率		25.6%	26.0%	25.8%	▲ 0.2	▲ 0.1	16.5%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		509.26	515.08	507.99	▲ 1.4%	▲ 4.5	476.1
消費量		503.51	518.19	519.32	▲ 0.2%	▲ 0.6	464.9
期末在庫量		188.00	184.89	173.56	▲ 6.1%	▲ 5.0	123.5
期末在庫率		37.3%	35.7%	33.4%	▲ 2.3	▲ 1.0	26.6%

### 【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		368.44	353.24	389.77	10.3%	▲ 3.0	269.1
消費量		363.76	362.96	377.68	4.1%	▲ 0.6	265.1
期末在庫量		100.04	89.70	98.92	10.3%	▲ 2.5	58.7
期末在庫率		27.5%	24.7%	26.2%	1.5	▲ 0.6	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 12, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向  
(米国農務省2022年9月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		429.86	449.59	418.86	▲ 6.8%	▲ 11.7	353.0
消費量		351.24	358.85	348.22	▲ 3.0%	▲ 4.0	317.1
輸出货量		107.23	94.83	87.83	▲ 7.4%	▲ 3.4	51.6
期末在庫量		58.40	60.71	50.56	▲ 16.7%	▲ 4.6	44.2
期末在庫率		12.7%	13.4%	11.6%	▲ 1.8	▲ 0.8	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		49.75	44.79	48.52	8.3%	-	61.3
消費量		30.41	30.64	30.43	▲ 0.7%	-	37.8
輸出货量		27.05	21.78	22.45	3.1%	-	27.5
期末在庫量		23.00	17.96	16.60	▲ 7.6%	-	19.5
期末在庫率		40.0%	34.3%	31.4%	▲ 2.9	-	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		372.89	398.71	365.09	▲ 8.4%	▲ 11.4	285.3
消費量		315.97	323.41	313.31	▲ 3.1%	▲ 3.9	275.5
輸出货量		77.21	70.44	62.93	▲ 10.7%	▲ 3.3	20.7
期末在庫量		34.01	41.49	32.98	▲ 20.5%	▲ 4.4	23.5
期末在庫率		8.6%	10.5%	8.8%	▲ 1.8	▲ 1.0	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		358.45	383.94	354.19	▲ 7.7%	▲ 10.5	273.2
消費量		306.69	314.34	304.81	▲ 3.0%	▲ 3.8	263.0
輸出货量		69.78	62.87	57.79	▲ 8.1%	▲ 2.5	18.5
期末在庫量		31.36	38.73	30.95	▲ 20.1%	▲ 4.3	20.9
期末在庫率		8.3%	10.3%	8.5%	▲ 1.7	▲ 1.0	7.4%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		7.22	6.09	5.24	▲ 14.0%	▲ 0.4	6.3
消費量		4.86	4.81	4.48	▲ 6.9%	▲ 0.1	3.8
輸出货量		2.97	2.61	2.45	▲ 6.1%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.39	1.26	0.98	▲ 22.2%	▲ 0.2	1.2
期末在庫率		17.8%	17.0%	14.1%	▲ 2.8	▲ 2.2	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	120.71	119.16	▲ 1.3%	▲ 4.1	82.8
消費量		60.91	63.20	63.91	1.1%	▲ 0.6	48.6
輸出货量		61.67	58.38	56.74	▲ 2.8%	▲ 1.9	36.1
期末在庫量		6.99	6.53	5.44	▲ 16.7%	▲ 1.2	3.8
期末在庫率		5.7%	5.4%	4.5%	▲ 0.9	▲ 0.9	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 12, 2022)  
「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。  
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物等の価格動向 (2022年)

● 小麦 : 7.93 ドル/bu (前年同時期の価格 : 7.15 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2022年9月第1週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、アルゼンチン産小麦の豊作や、USDA 1月需給報告での市場予想を上回る世界の期末在庫量も、7ドル/bu 台前半から半ばで推移。その後、1月下旬にかけ乾燥が続いていた米国中西部での寒波の影響懸念や、ウクライナ情勢の緊張から、8ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報等から値を下げ、7ドル/bu 台半ばで推移。

2月に入り、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から値を上げ、3月7日には史上最高の14.25ドル/buに値を上げた。その後は、10ドル/bu 前後まで値を下げた。

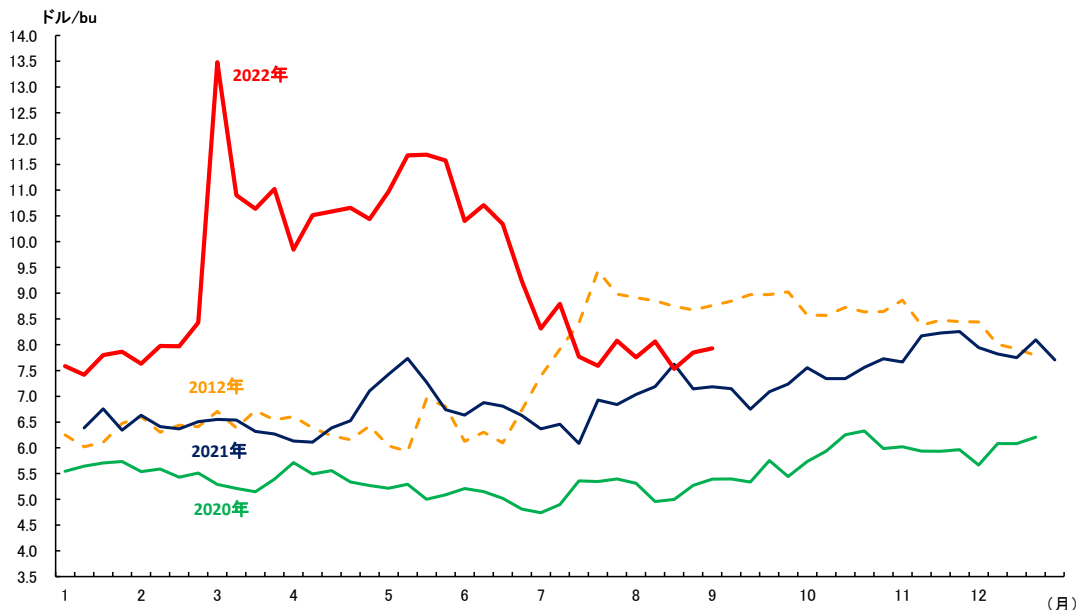
4月に入り、USDA 発表の作付意向面積が前年度に比べ増加したこと等から、4月初めに9ドル/bu 台後半に値を下げたものの、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による世界的な小麦の供給懸念や、冬小麦の主産地の米国プレーンズの乾燥による作柄への影響懸念等から11ドル/bu 台前半まで上昇。その後、米国の低調な輸出等から10ドル/bu 台半ばに値を下げた。

5月に入り、米国産冬小麦主産地の降雨も、インドの輸出停止やウクライナ産の輸出の停滞から、12ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から10ドル/bu 台後半に値を下げた。

6月に入り、米国や欧州での冬小麦の収穫進展、6月末のUSDA 面積調査での予想を上回る作付面積から、8ドル/bu 台半ばに値を下げた。

7月に入り、EUでの乾燥による生産減見込み等から8ドル/bu 台後半に値を上げたものの、各国の冬小麦の収穫の進展や、ウクライナ、トルコ、ロシア、国連でのウクライナ産穀物輸出再開に向けた合意への期待感等から7ドル/bu 台半ばに値を下げた。その後、ウクライナからの輸出再開の不透明感から8ドル/bu 前後に値を上げた。

8月に入り、ウクライナの黒海経由での輸出再開から7ドル/bu 台半ば値を下げたものの、米国プレーンズの高湿・乾燥懸念やドル安の進行等から、8ドル/トン台前半に値を上げた。8月中旬には、ウクライナ産穀物の輸出進展から7ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、その後、とうもろこし、大豆価格の上昇に追従し値を上げ、8月末現在、8ドル/bu 前後で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：6.69 ドル/bu （前年同時期の価格：5.08 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2022 年 9 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)】

1 月に入り、南米の乾燥懸念に支えられ 6 ドル/bu 前後で推移したものの、1 月半ばに、南米の短期的な降雨予報等から 5 ドル/bu 台後半に値を下げた。その後、原油価格の上昇、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から 6 ドル/bu 台前半に値を上げた。

2 月に入り、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、原油価格の上昇等から 7 ドル/bu 台半ばに値を上げた。その後も 3 月末にかけ、ウクライナ情勢や原油価格の上昇から、7 ドル/bu 台半ばで推移。

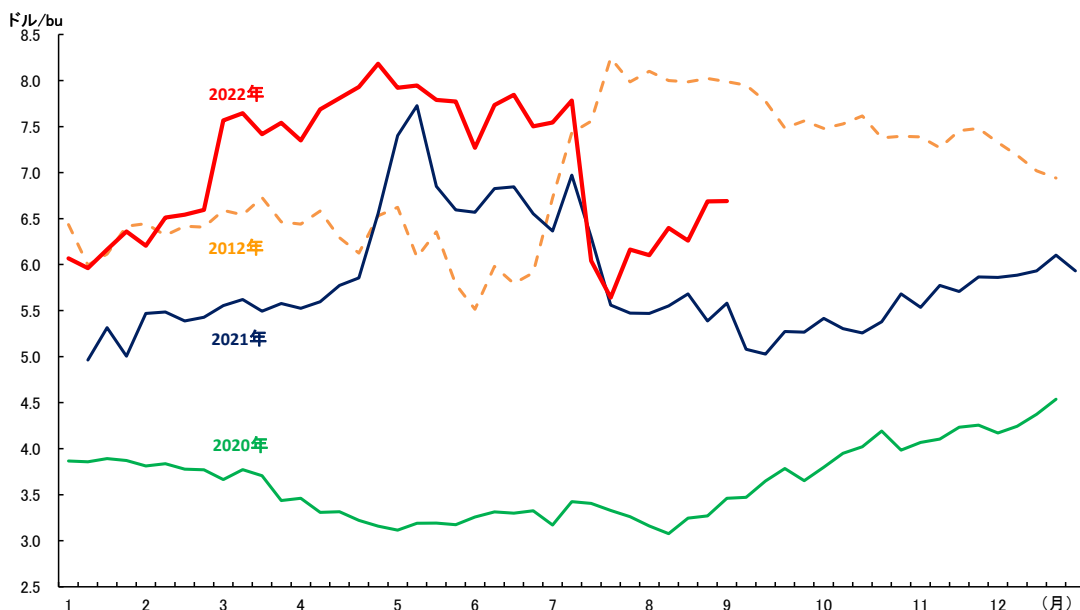
4 月に入り、市場予想を下回る USDA 発表の作付意向面積、ロシアによるウクライナ侵攻の深刻化、米国中西部の低温や雨がちな天候による作付けの遅れ、原油価格の高止まり等から 4 月半ばに 8 ドル/bu 台前半に値を上げた。

5 月に入り、米国中西部の遅れていた作付けが天候の改善により加速されたことや、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から 7 ドル/bu 台半ばに緩やかに値を下げた。

6 月に入り、ロシアのウクライナ侵攻の継続、原油価格の高止まり、堅調なエタノール生産から 7 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、6 月下旬以降、6 月末の USDA 面積調査での予想を上回る作付面積等から、7 ドル/bu 台半ばに値を下げた。

7 月に入り、米国中西部の高温・乾燥に伴う作柄悪化懸念等から 7 ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、7 月下旬にかけ、米国中西部の一部での降雨予報やウクライナ産穀物輸出再開に向けた 4 者合意への期待感等から 5 ドル/bu 台半ばに大幅に値を下げた。その後、米国中西部の高温・乾燥懸念から 6 ドル/bu 台前半に値を上げた。

8 月に入り、ウクライナの黒海経由での輸出再開等から 6 ドル/bu 前後に値を下げたものの、米国中西部の高温・乾燥懸念やドル安の進行等を受け、6 ドル/bu 台前半に値を上げた。8 月中旬以降、米国中西部の降雨予報やウクライナ産輸出の増加も、EU 及び米国での高温・乾燥による作柄悪化懸念から値を上げ、8 月末現在、6 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：445 ドル/トン（前年同時期の価格：424 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2022年9月第1水曜日のFOB価格。史上最高値：1,038ドル/トン(2008年5月21日)】

1月に入り、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要やバーツ高等により、450ドル/トン台前半に値を上げた。

2月に入り、旧正月の休暇期間などによる需要の減少などから、2月中旬には440ドル/トン台半ばまで値を下げ、その後もバーツ高により海外からの需要が減少したことで更に430ドル/トン台半ばまで値を下げた。

3月に入り、ロシアのウクライナ侵攻が深刻化する中でも、コメは新規需要が乏しく、ほぼ横ばいで推移したものの、3月下旬からアフリカ諸国や中東からの需要により440ドル/トン台前半まで値を上げた。

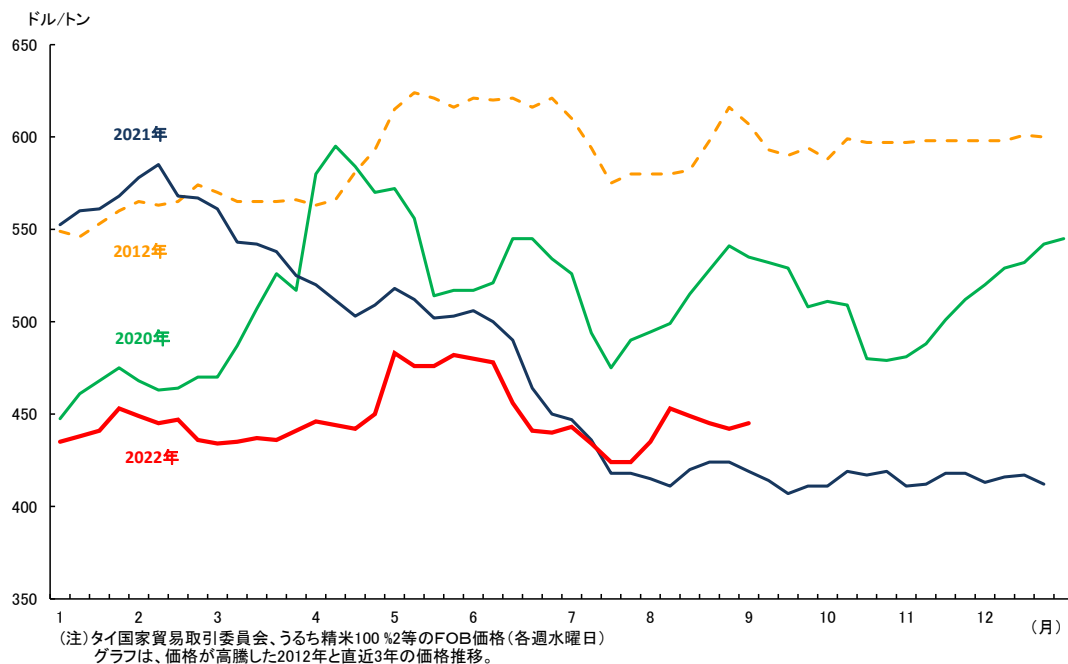
4月に入り、バーツ安の一方で、ラマダンを迎えたアフリカ諸国の需要に下支えされ、440ドル/トン台前半から半ばで推移。その後、イラクからの需要で450ドル/トン前後に値を上げた。

5月に入り、バーツ安にも関わらず、継続するイラク等からの強い需要により480ドル/トン台前半まで値を上げた。その後、インド産等との価格競争により値を下げたものの、中東諸国からの需要により再び480ドル/トン台前半まで値を上げた。

6月に入り、2017年以來のバーツ安に加え、イラクやアフリカ諸国からの需要が低下したことから、6月下旬には440ドル/トン前後に値を下げた。

7月に入り、一時バーツ高となったものの、再びバーツ安に転じたことや、乾季作の新穀が市場に流通し国内価格が低下したこと、ベトナム産に対して価格競争力があるものの、新規需要が軟調なことから値を下げ、7月下旬現在、420ドル/トン台半ばで推移。

8月に入り、タイ国内の堅調な需要に加え、中東等からの新規需要等から、一時450ドル/トン台前半に値を上げた。その後、軟調な需要により値を下げ、8月下旬現在、440ドル/トン台前半で推移。



● 大豆：15.11ドル/bu（前年同時期の価格：12.83ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2022年9月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から1月上旬に14ドル/bu前後まで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から一時13ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、再び乾燥による南米の生産量の減少見通し等から2月上旬に16ドル/bu台後半に値を上げたものの、下旬には南米産地の降雨予報や利益確定の動きから一時15ドル/bu台後半に値を下げた。

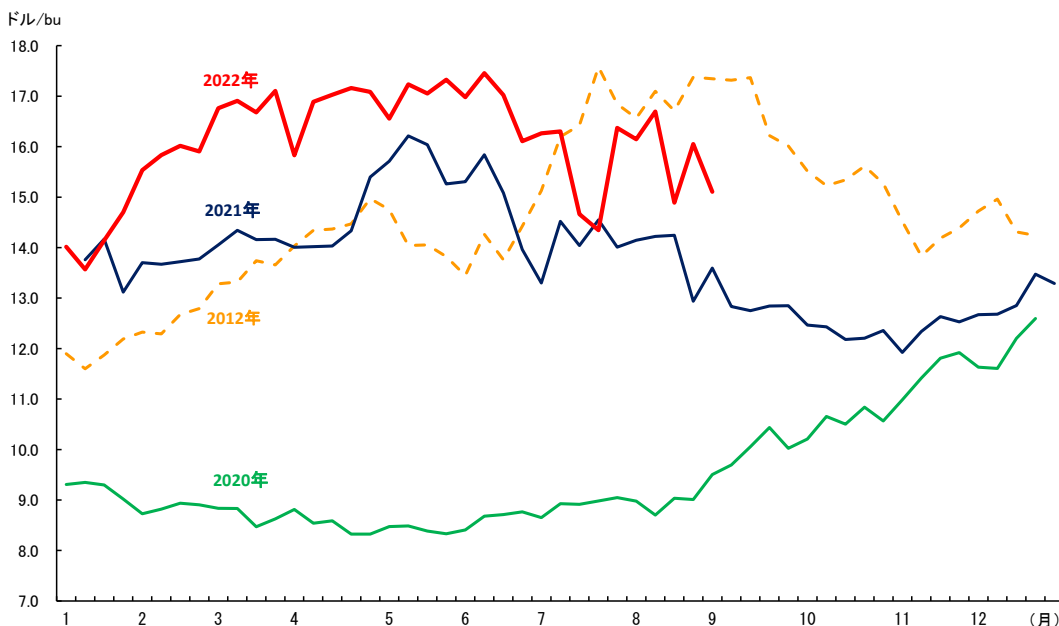
3月に入り、ウクライナ情勢の緊張の中、南米の高温・乾燥によるさらなる減産懸念や、植物油価格全体の上昇等から、3月下旬にかけ17ドル/bu台前半に値を上げたものの、4月初旬にかけ、市場予想を上回るUSDA発表の作付意向面積等から15ドル/bu台後半に値を下げた。

4月上旬以降、ラニーニャ現象に伴うブラジルの高温・乾燥による減産やロシアのウクライナ侵攻の深刻化、植物油価格全体の上昇等から4月下旬に17ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、コロナ感染封じ込めに伴うロックダウンによる中国の需要低迷の懸念等から、4月末には17ドル/bu前後まで値を下げた。

5月に入り、16ドル/bu台前半まで値を下げたものの、5月中旬にかけ、米国の中国向けを中心とした好調な大豆輸出、ロシアのウクライナ侵攻の継続や、植物油価格全体の高止まり等から17ドル/bu台前半に再び値を上げ、さらに、6月上旬には、中国のロックダウンの解除、大豆の堅調な国内需要や原油相場の上昇等から17.69ドル/buと2012年9月の史上最高値に迫る水準まで値を上げた。その後、中国需要の伸び悩み懸念や欧米の経済減速懸念から値を下げたものの、予想を下回る米国産の作柄評価や、USDA面積調査で作付面積が予想を下回ったこと等から6月末に16ドル/bu台後半まで値を上げた。

7月に入り、欧米を中心とした世界的な景気後退懸念から、さらに7月上旬に15ドル/bu台後半まで値を下げたものの、株式や原油価格の上昇から、16ドル/bu台半ばに値を上げた。7月中旬から下旬にかけて、米国中西部の一部での降雨予報から14ドル/bu台前半まで大幅に値を下げたものの、米国中西部の高温・乾燥懸念から16ドル/bu台前半に値を上げた。

8月に入り、米国産大豆の作柄改善等から15ドル/bu台半ばに値を下げたものの、米国中西部の高温・乾燥懸念やドル安の進行等を受け、17ドル/bu前後に値を上げた。8月中旬以降、米国中西部の降雨予報等から14ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、米国の高温・乾燥による作柄悪化懸念から16ドル/bu前後まで値を上げた。その後、米国では着莢期に適した天候予報から値を下げ、8月末現在、15ドル/bu前後で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

### 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
108.99	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

### 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45.01	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC  
Grain Market Indicators」  
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

### 3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
57.03	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	93.67

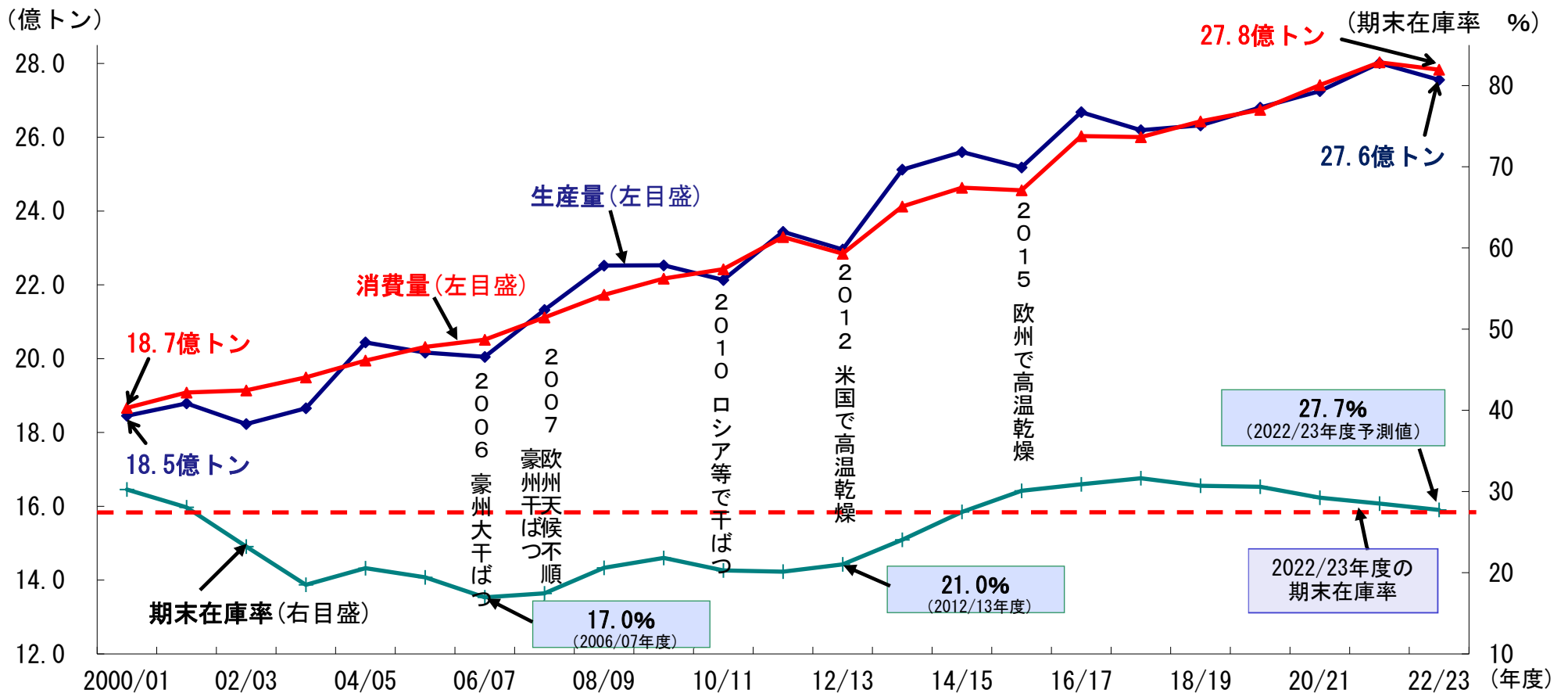
出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年8月, 120頁  
但し、2022年8月 は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum  
Status Report」の日次データの平均値。



# 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.7%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

## □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (September 2022)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。